

# たてはく

## 開館30周年記念式典



令和3年11月1日15時30分より立山国際ホテルで、これまで様々な立場から館の活動を支援していただいた方々をお招きし、開館30周年記念式典を行いました。

式典は、可西舞踊研究所の皆さんによる舞踊「富山に伝わる三つの民謡」のオープニングで始まりました。

続いて新田富山県知事が「立山の自然と人との関わりを学ぶ拠点として、立山風土記の丘を発展させ県内初の県立総合博物館として開館した経緯をふまえ、多くの人に愛され何度も訪れてもらえる博物館として飛躍した

い」と式辞を述べました。

そのあと岡田館長が館の30年の歩みをスライドで紹介したのにつき、新田知事が、これまで館に多大なご尽力ご協力を頂いた1団体、6個人の皆様に感謝状と記念品を贈呈しました。五十嵐県議会議長、舟橋立山町長からご祝辞をいただき式典を終了しました。

また当日は式典に先立ち、展示館で常設展示・特別企画展視察会も併せて実施し、学芸課職員が展示解説を行いました。  
(吉野俊哉)

### 目次

開館30周年記念式典	1
初心不可忘 ～初心忘るべからず～	2
開館30周年記念・後期特別企画展「霊山立山 天空への祈り—修験から民衆登拝、布橋灌頂会まで—」を終えて	2
学芸課発 立博雑学	
第3回 室堂平の巨石に刻まれた祈り	3
令和3年度 冬の立山曼荼羅特別公開展「岩峠寺中道坊の立山曼荼羅」	3
友の会バスツアー 今年も勝興寺のある伏木地区と修験の山・石動山へ!	4
令和3年度 文化講演会「立山修験を考える—立山修験の位置付けと今後の課題—」を終えて	4
博学連携 当館初! オンライン出前講座を実施しました!	4
立博ぶらり探訪・もみじを愛でる会を終えて	4
編集後記	4





# 初心不可忘 ～初心忘るべからず～



館長  
岡田 知己

この言葉は、現代では物事を始めた頃の新鮮な気持ちや意欲を忘れてはいけないという意味で使われていますが、これは世阿弥の思ひとは少し異なるようです。世阿弥は「初心」について、「是非」・「時々」・「老後」の三つに分けて説いています。

「是非の初心忘るべからず」は、たとえ立派な役者になったとしても、さらに上の段階の芸を身につけるために

は、工夫を重ねなくてはならない。若い頃の未熟な自分を常に忘れないでいれば、そこから向上した今の自分自身を正しく認識できるということです。

「時々の初心忘るべからず」は、いつでもその時々の初心に立ち戻り、その都度「はじまり」を振り返ることができるようになることが大切だということです。

そして「老後の初心忘るべからず」ですが、これは老後にさえもふさわしい芸を学ぶ初心があり、それを忘れずに限らない芸の向上を目指すことが大事だということです。体力は衰え、声も張りを失い、視力も落ち、激しい動きはできなくなったとしても、そうやって初めて必要とされる芸を身につけることが、大事だということです。

「初心（＝未熟さ）」を忘れず、日々切磋琢磨し、県民に感動を与え愛される博物館を目指して、より一層努めてまいります。

本年も立山博物館をよろしく願います。



開館30周年記念・後期特別企画展

## 霊山立山 天空への祈り —修験から民衆登拝、布橋灌頂会まで— を終えて

開館30周年を記念する第二弾の特別企画展では、重要文化財や近年発見された新資料から霊山立山に人びとが向けた祈りと信仰の軌跡を紹介しました。

立山における山岳信仰の歴史を紐解くと、平安時代までさかのぼることができます。第1章「修験者の祈り」では、大日岳と剣岳で発見された銅錫杖頭（いずれも重要文化財）と上市の大岩・黒川で発見された遺物などを展示しました。明治26年（1893）に民間登山者が大日岳で見出した銅錫杖頭は、発見の経緯を記した木箱と包布が遺されており、中央に宝珠を冠した双竜を飾る立山の至宝です。他方、明治40年（1907）に陸地測量部員が剣岳山頂で発見した銅錫杖頭は、近くに鉄剣が置かれた状態で奉納されており、剣岳の宗教的性格を考える上で重要な遺物です。

第2章「墮地獄救済の祈り」では、中世「帝釈岳」＝別山に着目し、硯ヶ池周辺での如法経供養（法華経を持経す

る、書写し奉納する）が活発に行われていたことなどを紹介しました。第3章「立山の神仏への祈り」では、常願寺川左岸に立地する立蔵社（富山市）に安置されている2体の御神像をはじめ、鎌倉・室町時代の仏像を展示しました。第4章「近世立山信仰の祈り」では、現存最古の「立山縁起」（個人蔵）とともに立山曼荼羅と布橋灌頂会に代表される立山信仰の民衆化の諸相を紹介しました。

千年にわたる霊山立山の歴史を理解するためには、芦峯寺・岩峯寺はもとより、上市、本宮などの山麓全体および山中の行場を見ていく必要があります。今後のさらなる調査研究が期待されます。

このたび貴重な資料の出品にご協力いただいた所蔵者の方々、ご観覧いただいた来館者の方々に改めて感謝申し上げます。（高野靖彦）



タイトルディスプレイ



展示解説会の様子





学芸課 発

## 立博雑学



学芸課によるリレー形式のコラムです。立山や立博についての蘊蓄<sup>うんちく</sup>や魅力を、雑学としてお伝えします。

## 第3回 室堂平の巨石に刻まれた祈り

今夏、立山黒部ジオパーク協会主催の講座が、立山自然保護センターで開かれ、参加者と一緒に室堂平に残る石造物を見学しました。今回、その中から梵字（古代インドのサンスクリット語から発達した文字）を刻む2つの石標をピックアップし、私見も交えて紹介したいと思います。



【写真1】広場西端の石標



【写真2】広場東端の石標

## ■石標「ナ・モ・ア・ミ・ダ・ブ」【写真1】

室堂（重要文化財）の南にある広場の西端に位置する石標（安山岩）には、梵字で「ナ・モ・ア・ミ・ダ・ブ」と阿彌陀如来に帰命する意味を表す、六字名号が中央に大きく刻まれています。その右側には小さく「奥岳仙臺観音寺 快山法印筆」と刻まれており、

この「快山」という人物は『宮城県寺院明細帳』（宮城県図書館蔵）にみえる「牡鹿郡鮎川村大字鮎川濱字南」「観音寺」の開基「僧大量快山」と考えられます。なお、観音寺の創立は延宝5年（1677）とされています。『立山寄附券記』（雄山神社前立社壇蔵）には江戸時代の立山山中への寄進者が記されており、享保18年（1733）に「立山御戸帳縫梵字寄進 奥州仙台観音院 縫仕富山大田口清次良」と「仙台観音院」とあり、先の観音寺と関連があると考えられます。東北の地から極楽往生の祈りが霊山立山へ捧げられているのです。

## ■石標「ア・ビ・ラ・ウン・ケン」【写真2】

室堂の南にある広場の東端の石標（安山岩）には、梵字で「ア・ビ・ラ・ウン・ケン」と左下に「天」の文字が刻まれています。奉納時期、奉納者、石工などは不明です。これは胎藏界大日如来の真言であり、同真言には「修行者の一切修法がごとごとく成就する」という意味もあることから、本来は室堂平を拠点に修行する行者を護るために刻まれたものかもしれません。江戸時代には、この石標の横から旧道が続き、登拝者は懺悔坂の急坂を登り、祓堂、一ノ越へ向かいました。石標に対して「御本社」（現在の雄山神社峰本社）へ無事に参拝できるようにと、登拝者は安全祈願の祈りを捧げていたのではないのでしょうか。

(高野靖彦)

## 令和3年度 冬の立山曼荼羅特別公開展

## 「岩峯寺中道坊の立山曼荼羅」

現在確認されている「立山曼荼羅」約50点からテーマを設けて紹介している特別公開展。今年度の冬は、中道坊に関わる立山曼荼羅に注目しています！

会期：令和3年12月14日(火)～令和4年2月27日(日)

江戸時代、岩峯寺集落には一番多いときで24の宿坊がありました。その中の1つ、中道坊（ちゅうどうぼう）に関わる立山曼荼羅が2点あります。

1点は岩峯寺中道坊に伝わり、四幅一対で立山地獄を大きく描くなど絵解きに使われたものに近い形態の「立山曼荼羅」中道坊本（個人蔵）です。もう1点は、裏書に「文政2年（1819）に中道坊所持の画を書写した」と記されており、山の様相が詳細に描かれた岩峯寺系の立山曼荼羅の特徴をもつ「立山曼荼羅」立山博物館A本（当館蔵・国指定重要有形民俗文化財）です。

令和3年度の冬の立山曼荼羅特別公開展では、この岩峯寺中道坊に関係する、形態の異なる2点の「立山曼荼羅」をぜひ見比べてみてください！

(細木ひとみ)



「立山曼荼羅」中道坊本（個人蔵）

会場：展示館2階 常設展示室（一部）

開館時間：9：30～17：00（入館は16：30まで）

観覧料：常設展示観覧料 一般300円（団体240円）

大学生以下と70歳以上は無料

会期中の休館日：月曜日（ただし1/10は開館）、

12/29(水)～1/3(月)、1/11(火)、2/24(木)





友の会  
バスツアー

### 今年は勝興寺のある伏木地区と 修験の山・石動山へ!

立山博物館友の会主催で、ボランティアの方々と一緒に、2年ぶりのバスツアーを11月25日(木)に開催しました(総勢36名)。

岡田館長の「高岡勝興寺へ行こう!」の一言で行き先が決まった今年は、平成の大修理を終えたばかりの高岡勝興寺に加えて、一部リニューアルされた高岡市万葉歴史館と、古代から近世にいたるまで山岳信仰の霊場として栄えた石動山へ(石動山資料館、大宮坊ほか)。天気にはまったく恵まれませんでしたが、県内屈指の文化財と、立山と同じく信仰の山であった石動山について学び、昼食には能登牡蠣を美味しくいただき、「楽しくて美味しい!」という充実した一日を久しぶりに過ごせたように思えます。

(細木ひとみ)



### 令和3年度文化講演会



### 立山修験を考える

### —立山修験の位置付けと今後の課題—を終えて

10月16日(土)に、山本義孝先生(日本山岳修験学会理事)をお迎えして、「立山修験」についての文化講演会を開催しました(参加者50名)。

全国の山岳遺跡を調査されている山本先生から、これまでの調査成果を基にした立山山中に遺る修験者の痕跡や活動の特徴についてのお話があり、最後には立山山中の今後の調査についての課題も提起されました。参加者からは「面白かった〜」との感想が多く寄せられ、30周年にふさわしい有意義な講演会となりました。(細木ひとみ)



### 博学 連携

### 当館初! オンライン出前講座を実施しました!



射水市立下村小学校の4・5・6年生を対象に、オンライン出前講座を実施しました。当館初の試みであったため子どもたちの反応はどうかと少々心配していましたが、子どもたちは時折「おお〜!」と歓声を上げたり、大きく頷いてくれたりして、画面越しにも熱心に耳を傾けてくれているのが伝わってきました。講座後、「遠足がもっと楽しくなった!」、「早く行きたくなった!」と感想を述べてくれた子どもたち。翌週の遠足当日は、各自で探究するテーマを決め、展示物を食い入るように観てくれていました。

(石崎康弘)

### 立博ぶらり探訪・もみじを愛でる会 を終えて

7月24日(土)、10月9日(土)の両日「立博ぶらり探訪」を、また11月3日(水・祝)と7日(日)の両日「もみじを愛でる会」を教算坊にて開催しました。

両企画とも学芸員による立山曼荼羅絵解きを開催し、ぶらり探訪では企画展鑑賞や芦峯寺を散策、もみじを愛でる会では芦峯寺のやきつけの販売をしました。

今もなお受け継がれる立山信仰と芦峯寺の文化遺産をこれからも大切にしていきたいと思えます。(毛利成宏)



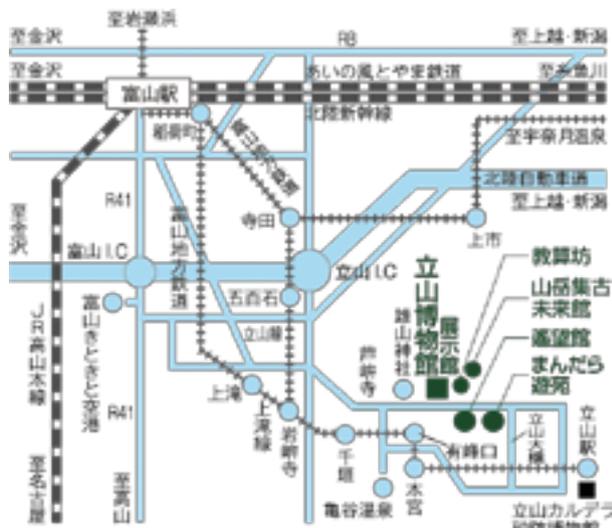
### 【おことわり】

本号に掲載する各種行事は、新型コロナウイルス感染症対策やその他の事情により、内容変更や中止の可能性がございます。その際は適宜当館HPにてご案内いたします。詳しくは当館までお問合せください。

### 編集後記

「而立」の三十年目が過ぎ、立山博物館は新たな目標を目指します。とはいえ、博物館も人と社会の在り方に寄り添い変化することが求められており、十年後「不惑」とはならないのかもしれませんが。そんな立博を、本年もどうぞよろしくお願いたします。(坂口)

### 案内図



- 最寄り駅  
富山地方鉄道立山線千垣駅  
下車徒歩(約2km)  
※日曜を除き町営バス運行  
「雄山神社前」下車すぐ
- 自家用車で  
JR富山駅から 約45分  
立山駅(千寿ヶ原)から 約15分  
富山インターチェンジから 約35分  
立山インターチェンジから 約30分

立山博物館のホームページはこちらから。



人間と自然のかかわり方を学ぶ

### 富山県[立山博物館]

〒930-1406 富山県中新川郡立山町芦峯寺93-1  
TEL 076-481-1216 FAX 076-481-1144

<https://www.pref.toyama.jp/1739/miryokukankou/bunka/bunkazai/home/index.html>

FacebookとTwitterあります!

立山博物館

